

			部会名	人づくり・地域づくり部会	
施策No.	3-2-3	施策名	特別支援体制の充実	施策主管課	学校教育課
施策の目指す姿		すべての児童生徒が、毎日いきいきと学校生活を送っています			
■ 施策評価シート(平成29年度実績評価)について					
<p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか。 以下の2点について、「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているかどうか不明確である。 ・(反映状況)の1つ目にある「ケース会議を実施した」の記述は、実施の回数・頻度や主な内容(たとえば、担当者間での情報共有や、関係機関との連携の内容など)といった、会議開催の具体的な実績がわからないので明記するべきである。 ・(反映状況)の2つ目にある「説明会を設定し、100%達成した」の記述は、読点の前後のつながりが不明確であり、説明会を設定した結果として「個別の教育支援計画」の作成割合が100%になったことがわかるように記載するべきである。この部分は、たとえば「各校の担当者向けの説明会を設定した。その結果、障がいのある児童生徒全員について『個別の支援計画』が作成され、作成している学校の割合が100%となった」としてはどうか。</p>					
<p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。 (施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)の内容について、以下の2点が的確ではない。 ・ふれあい共育推進員の「資質向上を図る研修」は、具体的にどのような資質の向上を図るのかを明記するべきである。 ・「学校のニーズ」に対して、支援員配置を今後どのように「充実する必要がある」のか、ニーズに対する支援員配置の過不足の状況などについて具体的な根拠を付して記載するべきである(「充実」については、たとえば人員を増やさずに資質向上を図る方向性もあれば、人員の増加と資質向上の両方を充実させる方向性も有り得る)。</p>					
<p>「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。 「個別の教育支援計画作成の割合」の分析は、障がいのある児童生徒全員の「個別の教育支援計画」が作成され、その結果として全小中学校において障がいのある児童生徒の状況を把握可能になったことが読み取れるように記載するべきである。</p>					
<p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。 以下の5点が的確ではない。 ・(課題)の1つ目にある「資質」や「連携」の具体的な内容を明記するべきである。 ・(課題)の2つ目にある「作成割合が100%となった」という記述は、課題を提示していない。作成割合100%を実現した上で、どのような課題があるのか具体的に記載するべきである。 ・(今後の方向性)の2つ目の内容は、(課題)の2つ目に対応していると考えられるが、課題の内容が不明であるため、今後の方向性の内容が妥当なものなのか判断できない。また「周知徹底する研修・伝達の機会を設定する」の記述は意味が理解できない。 ・(課題)の3つ目にある「充実を図る」は、繰り返しになるが、ニーズの高まりに対して支援員配置をどのように充実させるのか、ニーズに対する過不足の状況などについて具体的な根拠を付して記載するべきである。 ・(今後の方向性)の3つ目にある「充実」や「適切な学校配置」の記述は、それらの具体的な内容を、学校のニーズに対する過不足の状況などの具体的な根拠を付して記載するべきである。</p>					
<p>●シート記載内容全般について ・会議や計画作成などの活動は、「実施した」「作成した」などの事実の記載ではなく、それらの回数・頻度・内容などの実績が具体的にわかるように記載するべきである。 ・「ニーズの高まりに対して体制の充実を図る」場合、ニーズや現状の体制などについての根拠を出来る限り(量的な数値などの形で)具体的に明示するべきである。 ・本施策評価シートにある「LD」や「ADHD」などのような専門用語は、一般の市民でもその概要が理解できるように説明を付けるべきである。</p>					